

振り付け・演出、湯浅より、公演直前コメント、その5 ダンサーとダンス

昨日は、公演1週間前リハーサルでした。皆で力を出し合って作り上げていく舞台、その嬉しさが一人一人の表情に現れてきましたよ。

今日は、ダンサーとダンスについて。

私は「アーサー王」のダンサー達とお仕事するのは初めてです。踊る所を見せて頂いた事は何度かありますが、ダンスについてがっちり話したり、コメントをする事はありませんでした。というか、日本では私は各地にいる私の生徒さんとはダンスをしていません。英国を私のダンス本拠地として長年活動してきました。日本で教え始めた時には、ダンスの説明や単語をどう日本語にすればよいのか、と考えたものです。つまり、一本道で英国と日本間を行ったり来たりしてダンスをしてきました。

まず、驚いたのは、私が使っているダンス用語が通じるという事です。ダンス用語=動き、です。言葉からその意味する動きが想像されるって、すごい事だと思いませんか？ ダンス経験が異なれば、同じ用語から想像される動きは微妙に違ってきます。この事にとってもこだわる人も居ます。もちろん私も自分が美しいとか適切だと思う動きがあります。しかし、長年自分の興味のままに、異なる研究者を訪ね、通り一辺ではなく、納得するまでその方の考えや動きを学んできました。そのお陰でそれぞれのダンサーの動きがどこから来ているのか、そうなる理由を想像し、理解する事ができます。

ダンスは体から発生するものです。一人ずつ異なる体と心を持ち、動きは一人として同じ、という事はありません。指導者、研究者となれば、それぞれの異なる考えや研究が動きに反映されます。もちろん集団で踊る時は、異なる動きをなるべくそろえる必要があります。しかし、今回のように、時間がない所で様々なダンサーと一緒に踊る時、最も大切な事は、必ず共通しているコアな部分を実行する、という事です。

歴史舞踏はビデオの無い時代に残された、文字と図形と図像から復元していくものです。では、ビデオがあったなら、どう復元するのが正解かわかるのでしょうか？ 実は当時の舞踏家によっても動きや考えは異なっていたのです。でもやはり、コアな部分は共通しています。それは動きには時代や個人や地域を超える共通の美があり、その上で時代の美意識、文化からは誰も逃れられない、という事です。

私たちは、ダンサーも演奏者も、心から愛するこの時代の音楽、舞台、人々のマインドを今日ここによみがえらせたい、と思っています。なぜって聞かれてもわかりません。ただただ、美しく、心を震わせるこの音楽を、330年も前に彼が残してくれたから・・・。